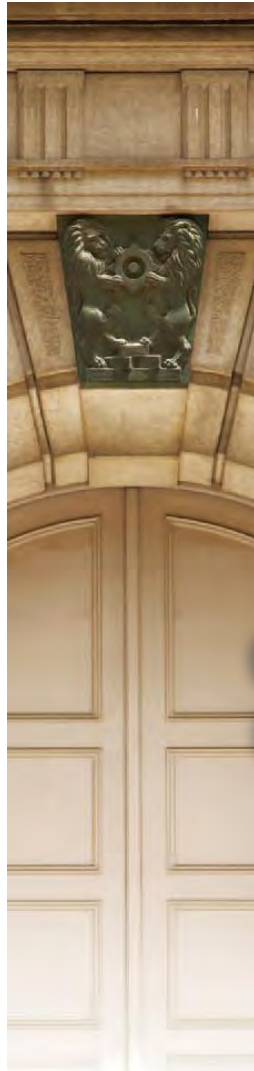


(参考資料)



# 新日銀ネット 全面稼動開始

(2015年10月13日)

日本銀行  
2015年11月

# 「決済」・「清算」・「決済システム」

## 1. 決済

- 経済取引では、取引当事者間で、資金や有価証券などを受け取る権利(債権)または渡す義務(債務)が発生。
- 「決済」とは、経済取引に伴い発生する資金や有価証券の受渡しを実際に行うことにより、こうした債権・債務を解消すること。

## 2. 清算

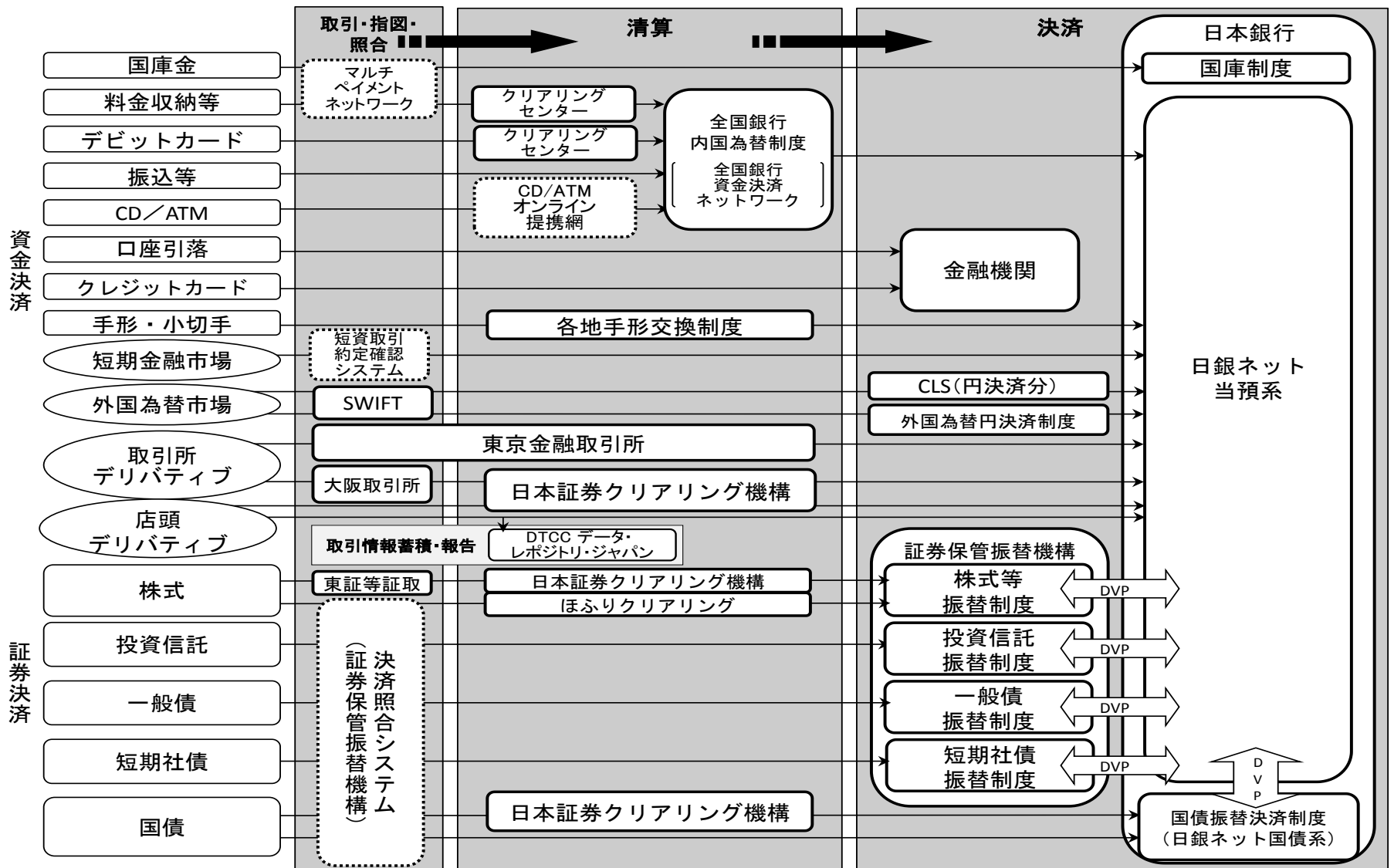
- 決済に先立って、多数の債権・債務を差し引きすることで、債権・債務を整理すること。

## 3. 決済システム

- 多数の参加者間で行う清算・決済を、一定の標準化(定式化)された手順にしたがい組織的に処理する仕組み。

⇒ 「安全性」・「効率性」を確保する必要。

# わが国の決済システム 1/2



(注) 点線で囲まれているシステムは取引の一部で利用されているもの。

# わが国の決済システム 2/2

- 日銀ネットとは、日本銀行と金融機関等との間の資金や国債の決済を担う、わが国決済システムの基幹インフラ。

利用金融機関等の数(2015年9月末時点)

当座預金決済 : 472先      国債決済 : 295先

資金決済システム			
日銀ネット (当預系)	全銀 システム	外国為替円 決済制度	東京手形 交換所
68.4千件 125.1兆円	6,208千件 11.9兆円	26.6千件 12.5兆円	90千枚 1.0兆円

証券決済システム		
日銀ネット (国債系)	証券保管振替機構	
19.1千件 101.3兆円	短期社債: 894件	4.5兆円
	一般債: 624件	4,660億円
	投資信託: 4,784件	5,368億円
	株式等: 1件	59億円

清算機関		
日本証券クリアリング機構	ほふり クリアリング	東京金融 取引所
国債店頭取引: 23.3兆円 取引所取引等: 1,745億円	5,988億円	77百万円

(注)

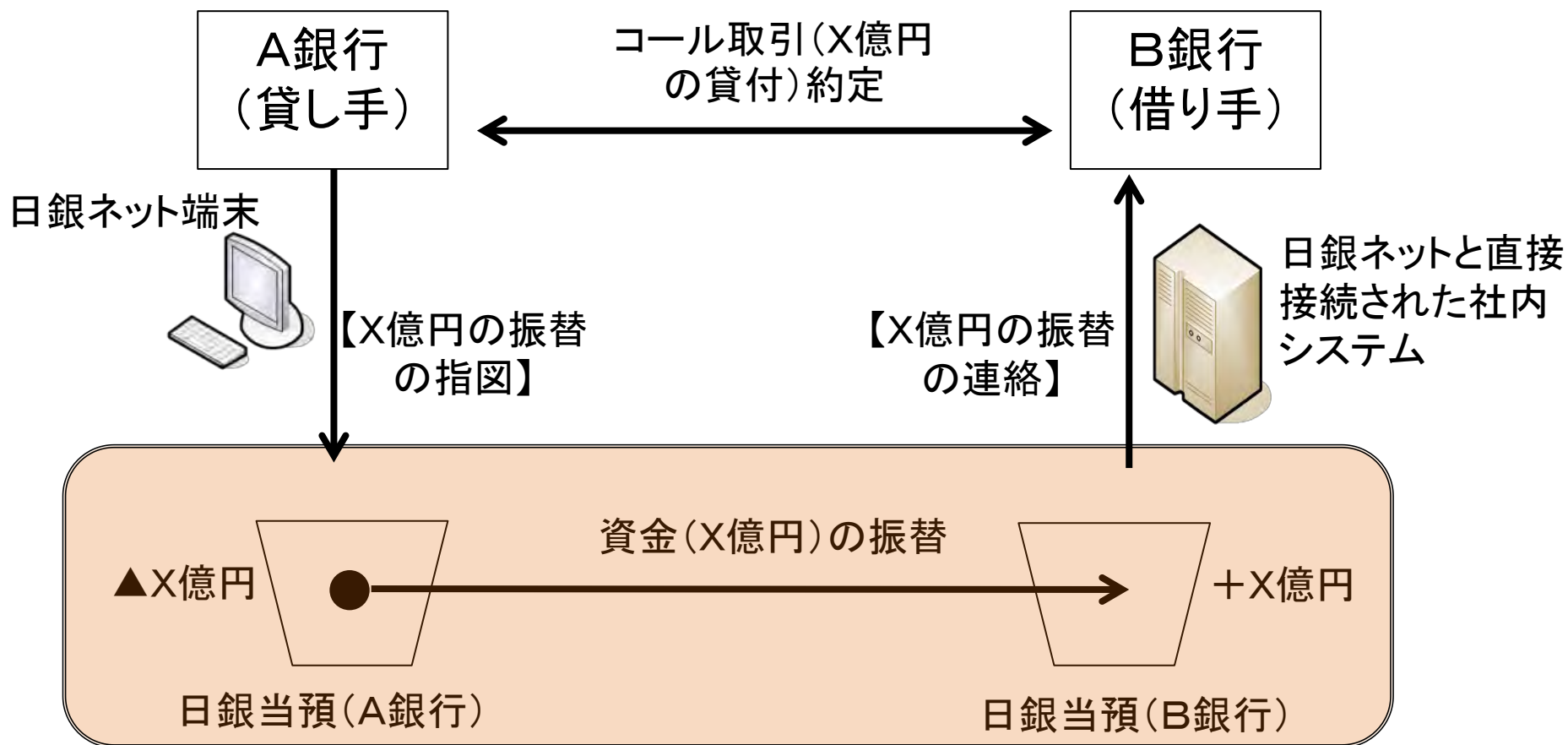
1. 2014年中の1営業日平均。
2. 清算機関は、ネットィング後の資金決済金額。

# 決済の「安全性」・「効率性」向上に向けた動き

		わが国の主な動き	
70年代		全銀システム稼動(1973)	
80年代	金融の自由化・国際化、国債発行の増加	国債振込制度整備(1980) 日銀ネット当預系稼動(1988)	効率性向上 (処理量の拡大)
90年代		日銀ネット国債系稼動(1990)	安全性向上 (リスクの削減)
00年代	アジア・米欧の金融危機と国際規制の強化	証券保管振替機構開業(1991) 日銀ネットに流動性節約機能導入(2008)	
10年代	一段のグローバル化・IT化	ASEAN+3が域内決済システムの接続を提言(2014) 全銀システムのあり方に関する検討(2014) 新日銀ネットの全面稼動(2015)	
20年代		日銀ネットの稼動時間を21時までに延長(2016<候補>)	

# 日銀ネットの役割 1 / 3

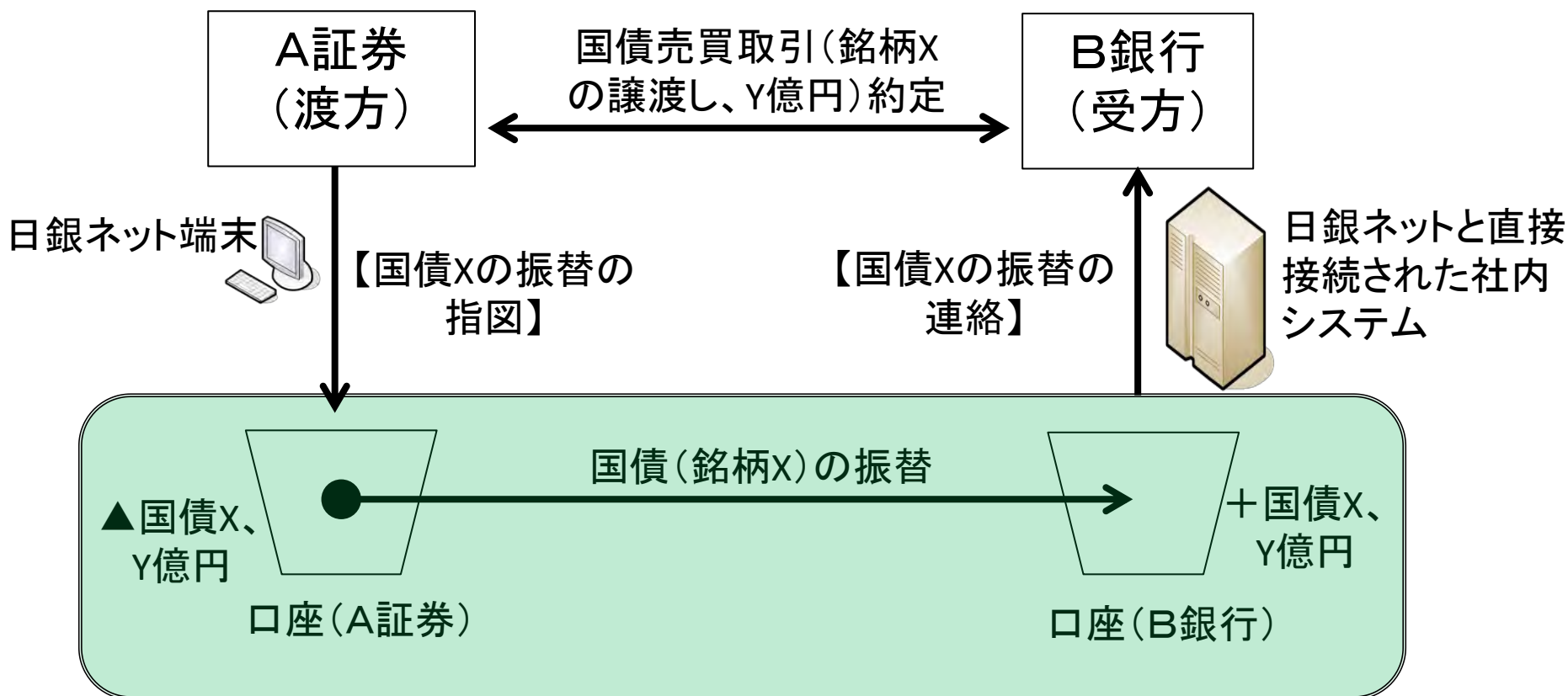
- 短期金融市場における無担コール取引にかかる決済の例



<日銀ネット当預系>

# 日銀ネットの役割 2/3

- 証券市場における国債売買取引にかかる国債決済の例



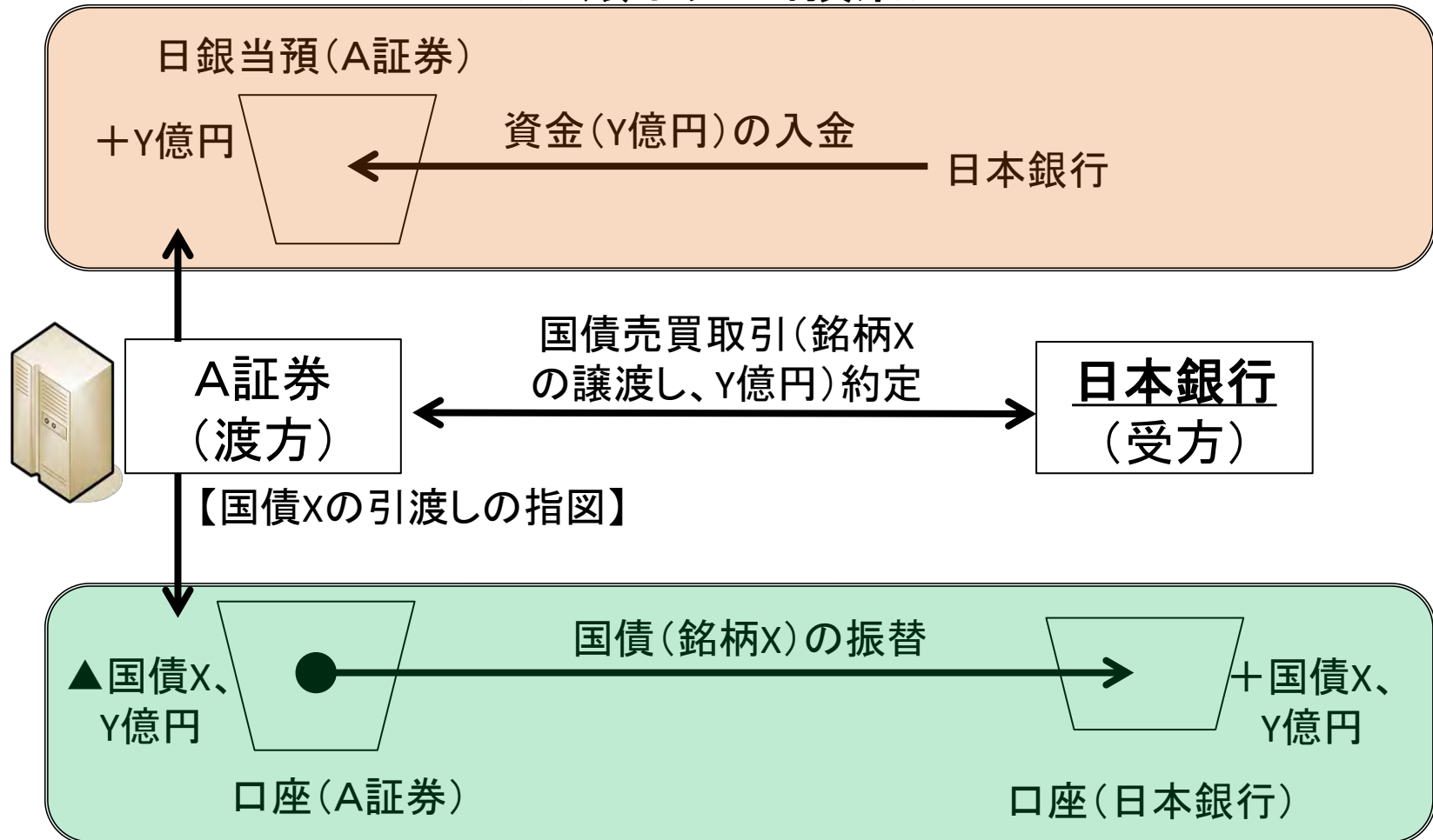
## <日銀ネット国債系>

※ 同時に、日銀ネット当預系を連動させ、受渡対象国債の譲受けにかかる資金の支払い (B銀行→A証券)を行うことで、国債のDVP (Delivery versus Payment) 取引が実現。

# 日銀ネットの役割 3/3

- 国債買入れオペにかかる決済の例

## <日銀ネット当預系>



## <日銀ネット国債系>



## 新日銀ネットは、予定どおり10月13日に全面稼動開始

- 新日銀ネットは、①最新の情報処理技術を採用し、②変化に対して柔軟性が高く、③アクセス利便性の高いシステムとすることを基本コンセプトに構築。
- 利用金融機関等の(a)担保利用効率の向上、(b)資金効率の向上、(c)国債決済の円滑化、といった機能改善が実現。
- 今後、新日銀ネットの下での稼動時間の拡大（19時→21時。候補日：2016年2月15日）により、海外市場との決済時間帯の重なりが増え、クロスボーダーの資金・国債決済が迅速化。

# 新日銀ネットの基本コンセプト（3点）

## ① 最新の情報処理技術を採用

- プログラミング言語やシステム連携基盤などで、汎用性が高く、今後の発展が期待される、最新の情報処理技術を採用

## ② 変化に対して柔軟性が高いシステムの構築

- 機能の統廃合・プログラムの共通化などを通じ、金融サービス内容やニーズの変化に柔軟に対応し得るシステムを構築

## ③ 金融取引のグローバル化・決済インフラのネットワーク化に対応するための、アクセス利便性の向上

- XML電文や国際標準コードなどの採用を通じて、内外の決済システムや金融機関との接続性を向上
- 稼働時間の大幅な拡大が可能となるシステム基盤を整備

# 新日銀ネットでの機能改善・統廃合

<主な機能の改善> 決済の安全性・効率性向上などのニーズに対応

- 担保の管理単位を店舗単位から法人単位へ変更

→ 担保利用効率の向上

- 振替社債等DVPの資金決済：同時決済口（流動性節約機能）の使用可能化

→ 資金効率の向上

- 振替停止期間廃止、利子配分先変更機能の新設

→ 国債決済の円滑化・担保利用効率の向上

このほかに、機能の統廃合を通じて、複雑化したシステムをスリム化

- 同時処理・一般処理を廃止して、RTGS処理へ統合 など

# 新日銀ネットの下での更なる稼働時間拡大

- 日本銀行では、新日銀ネットの下で、夜間の稼働時間拡大(19時→21時)を2016年2月に実施する方針を公表(2014年5月)。引き続き、利用金融機関や業界団体との間で、新日銀ネットの更なる有効活用の方法について議論を深めている。

## <稼働時間拡大の意義>

海外市場との決済時間帯の重なりが増えることで、クロスボーダーの資金・証券決済が迅速化



決済リスク削減、資金・担保効率向上を通じ、わが国決済全体の安全性・効率性向上や金融市場の活性化、金融機関の企業向け決済サービス等の高度化にも資する。

## <夜間における有効活用の具体例>

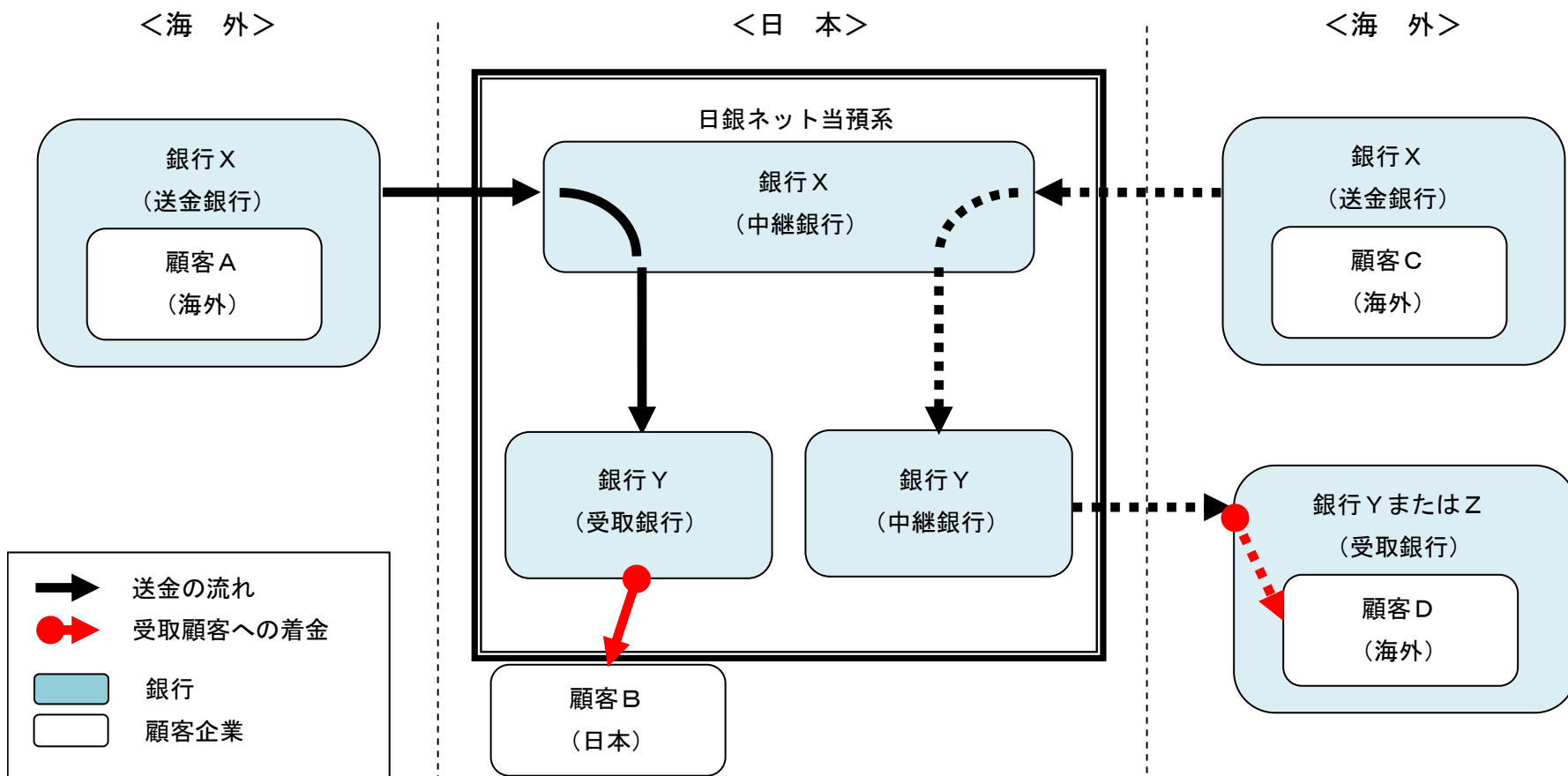
- ・海外との円建て顧客送金の迅速化
- ・グローバルベースでの日本国債の有効活用

# 新日銀ネットの夜間利用例 1 / 2

## 海外との円建て顧客送金の形態

①海外顧客から国内顧客への送金

②海外顧客から海外顧客への送金

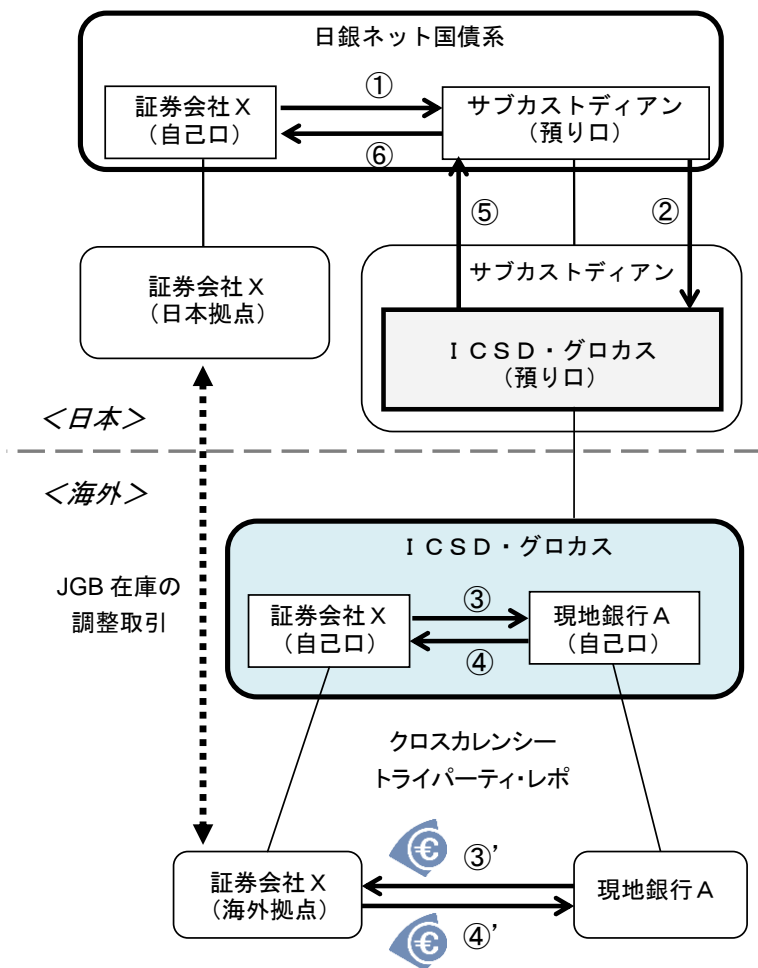


※「新日銀ネットの有効活用に向けた協議会」報告書(2014年3月)より

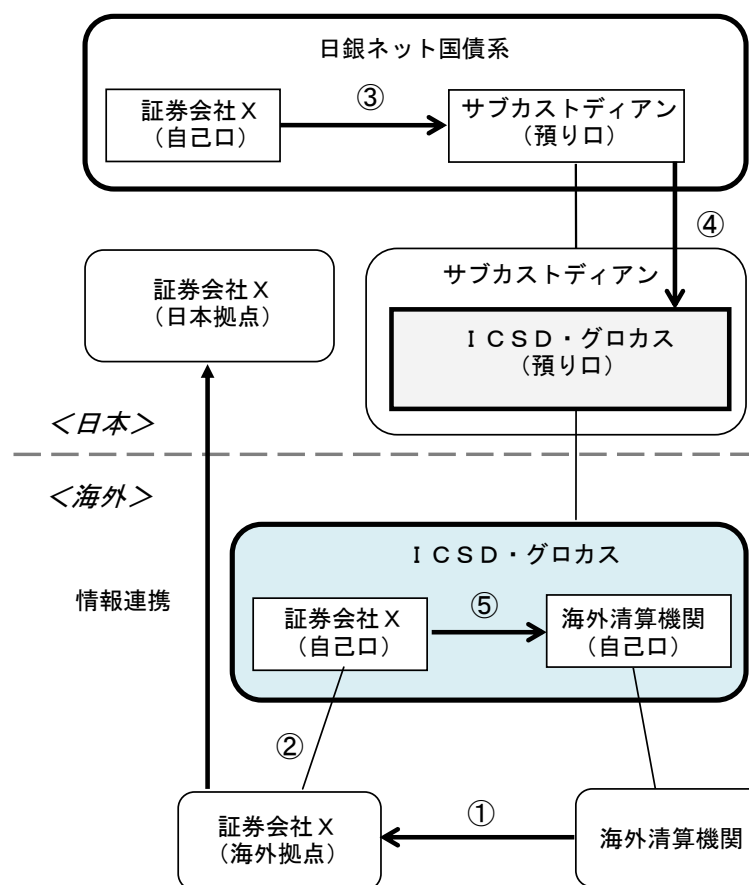
# 新日銀ネットの夜間利用例 2/2

## グローバルベースでの日本国債の有効活用の形態

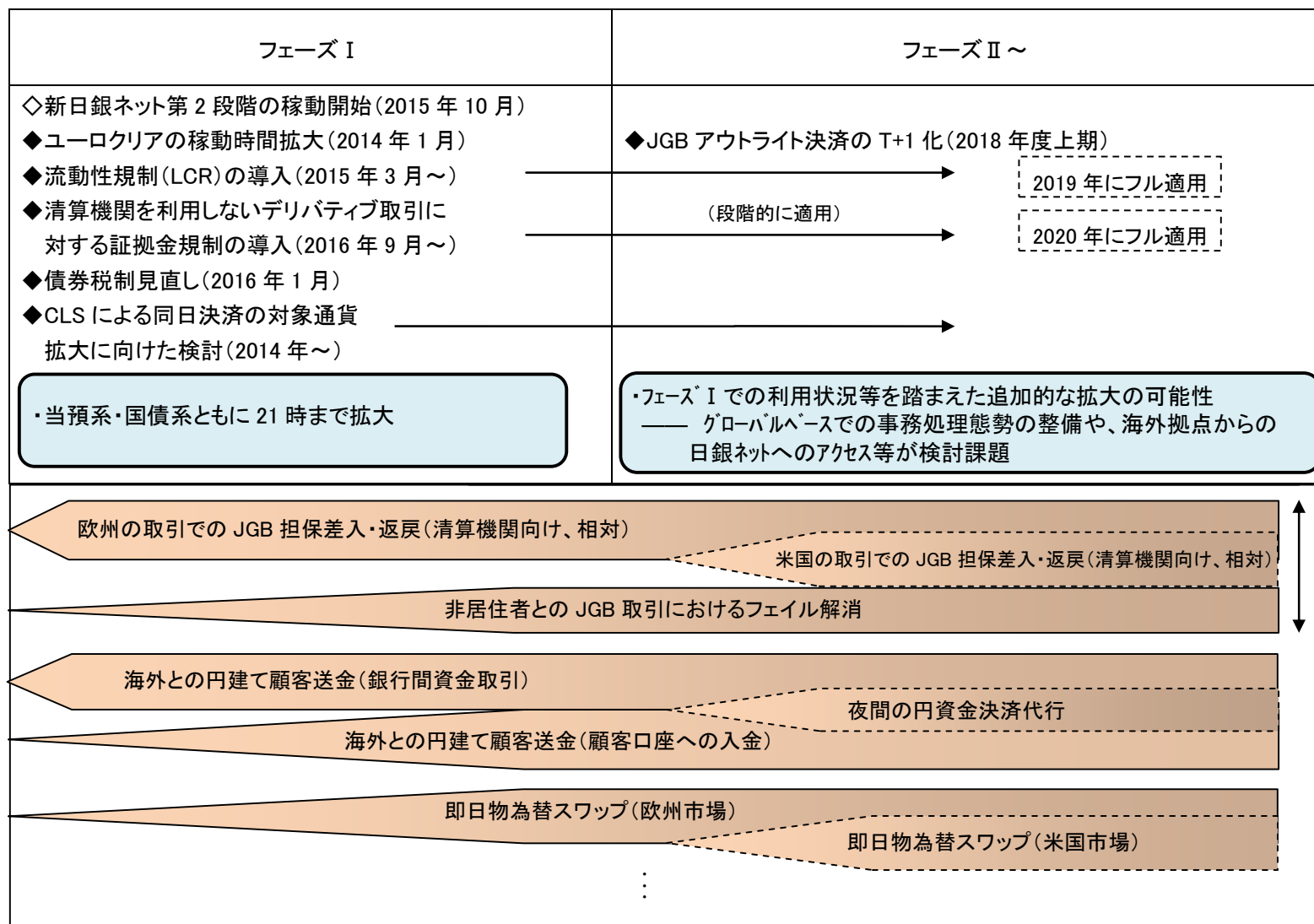
(1) JGBの担保利用による外貨・外貨建て証券の調達手段の拡大



(2) 海外清算機関への機動的なJGB担保差入



# 新日銀ネットの稼働時間拡大のロードマップ



※「新日銀ネットの有効活用に向けた協議会」報告書(2014年3月)より

